

Clinical Coordinator

患者さんインタビュー

木村歯科医院／埼玉県



さい まつ 愛子 さん (55歳) 介護職
西方 愛子さん (55歳) 介護職

噛めるようになって、
体も気持ちも絶好調。
今が一番幸せです！

私の気持ちを聴いたうえで、
最適な治療へと導いてくれます

「みんながおいしそうに食べているのに、私は奥歯がないから前歯で噛んでいる状態。食べ方が汚らしいと思われているんじゃないかと気になっていて、思いきり笑えませんでした。体の調子もあまり良くなり、友達と会っていても明るい感じがなくなっていました」

「友達と出かけたり、外でお食事するのが楽しくて仕方ないんです」
にこにこしながらそう話す西方愛子さん。
木村歯科医院に来るまでは、奥歯がないのが気になって、友達と食事をしたり笑ったりすることに気が進まなかったそうです。この大きな変化の背景には、クリニカル・コーディネーター吉田さんとの出会いがありました。

一年半ほど前の自分をそう振り返る西方さん。みんなと一緒に楽しそうに過ごしたい。きちんと噛めるようになりたい。そんな思いが次第にのり、歯科医院に行くことになりました。いろいろな情報や看板を見た結果、たどり着いたのが木村歯科医院だったといいます。

「もう、ドキドキでした。自分の歯がダメなのがわかっていたから、どうなっちゃんだらう、良くなるんだらうかって。悪くなった歯を全部抜いて、総入れ歯になることを覚悟していたんです」

そんな西方さんを最初に迎えたのは、クリニカル・コーディネーターの吉田さんでした。人前で笑えなくなっていたという悩みや、噛めるようになって楽しく食事したいという願い。これまで西方さんに何があったのか、今後どうしたいのかを吉田さんは「ひとつづき出していったんです。うなずきながら耳を傾ける姿勢に、西方さんの緊張は少しずつほぐれていったといいます。

そして、診察後の先生からの提案。そこには西方さんの想いがきちんと反映されていました。

「先生は、より自分の面に近い形で噛める方法としてインプラントをすすめてくれました。噛めることで、ただ健康になれるかを丁寧に説明してくれたんです。私が話したことを、吉田さんが先生にも伝えてくれたんです。この医院はみんなが私の要望に応えようとしてくれる。それを実感できたから、信頼しておまかせする気持ちになりました」